

気づきの向こう側

令和4年7月11日（月）
自問清掃通信 第1号

令和4年度の自問清掃がスタートして、3か月が経ちました。3つの玉、「根気玉」「親切玉」「発見玉」はどこまで磨けたでしょうか。ここで改めて、それぞれの玉を確認しましょう。

根気玉・・・進んで清掃に取り組む強い心

根気玉を磨くことで、まじめに取り組む自分に**気づく**

親切玉・・・人を助ける心

親切玉を磨くことで、気配りができ、周りで困っている人に**気づく**

発見玉・・・新しいことを見つける心

発見玉を磨くことで、自分の成長に**気づく**、友人の素敵なところに**気づく**

3つの玉を磨いていくことで、多くの気づきが生まれます。

自問清掃とは
「気づきの清掃」である。

さて、自問通信のタイトルである「気づきの向こう側」。これには一体どんな思いが込められているのでしょうか。今から約11年前の自問通信に、このような言葉がありました。

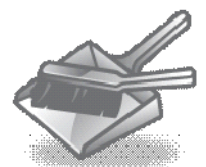
今週は、いつもほうきであまりはかないような隅の方を雑巾で拭いてみた。

するといつもよりもたくさんの汚れがとれた。汚れを発見できた。

きれいにすることができてちょっとうれしかった。

これはある生徒が先週の「私の中の私が見たい」の中に書いた一文です。いつも目につかないような汚れに気づく、そしてきれいになっていく床に嬉しさを感じる。こういった気づきと嬉しさの連続こそが自問清掃なのではないでしょうか。しかし、そういった気づきや嬉しさは誰かにやらされていると感じ取ることはできません。先生に「ここが汚れているからを拭きなさい。」と言われて拭いたとき、はたしてその子に「嬉しい」という気持ちが生まれるでしょうか。自分から考え、自分で決め、自分から行動することで何かに気づく・・・きっとそのときに初めて嬉しさであったり、裏表のない真心であったり、感謝の心が芽生えるものです。そのような思いから「気づきの向こう側」というタイトルの名のもと自問通信を今後発行していきます。

毎日の15分間。その時間のあなたは、「やらされているあなた」ですか。それとも、「自分の意志で行動しているあなた」ですか。



(文責 杉浦 悦郎)